

# 安全情報

平成 30 年 5 月 15 日

(公財) 日本骨髄バンク  
非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設  
採 取 責 任 医 師 各 位

公益財団法人 日本骨髄バンク  
ドナー安全委員会

## G-CSF 投与量過誤(過少・過剰) 事例について

このたび、非血縁者間末梢血幹細胞ドナーに、G-CSF 投与量を過誤(過少・過剰)した事例が 2 件報告されました。

各採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

### <概要>

- ① G-CSF 投与前の血液検査の結果、白血球数  $51,500/\mu\text{L}$  と減量基準を超えたにも関わらず、減量せず投与した。  
※G-CSF 投与量減量中止基準  
白血球数  $50,000/\mu\text{L}$  以上:50%減量  $75,000/\mu\text{L}$  以上:中止
- ② ノイトロジン  $650\mu\text{g/day}$  を皮下注射しなければならないところ、注射オーダー入力が  $150\mu\text{g/day}$  と誤って入力されていたため、G-CSF 投与 2 日目のノイトロジン投与が  $150\mu\text{g/day}$  しか行なわれなかった。

### <対応・対策>

上記事例の主原因は人為的要因によるもので、認識不足・入力ミス等が原因と考えられます。

G-CSF 製剤を適正に使用しない場合、ドナーに対して過度の負担や健康被害が生じる可能性があるため、本委員会としては、再発防止の観点から、当該事実を各採取施設に対し情報提供し注意喚起を促すこととしました。

各施設におかれましては、薬剤の取扱いについて、再度ご確認をお願いいたします。

以上をご確認の上、ご対応をお願い申し上げます。

公益財団法人 日本骨髄バンク

ドナー安全委員会

担当 折原

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-19

廣瀬第2ビル 7 階

TEL : 03-5280-2200

FAX : 03-5283-5629

## G-CSF(過少・過剰)投与 事例について

事 例	原 因 等	対 応(施設側からの報告)
<p>■G-CSF 投与前の血液検査の結果、白血球数 51,500/<math>\mu</math>L と減量基準を超えたにも関わらず、減量せず投与した。</p> <p>※G-CSF 投与量減量中止基準 白血球数 50,000/<math>\mu</math>L 以上:50%減量 75,000/<math>\mu</math>L 以上:中止</p>	<p>①G-CSF 製剤をオーダーした医師が半量で投与する事を把握していなかった。 ※主治医が多忙なため、主治医以外の医師がオーダーした。</p> <p>②白血球数を確認する前に G-CSF 製剤が投与された。</p> <p>③ダブルチェックができていなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨髄バンクドナー、血縁ドナーのマニュアル、手順書を一致させる。</li> <li>・採取責任医師が検査結果に基づく投与量を、電子カルテの伝言メモに記載し、チェックリストを作成する。HCTC が確認し、当直日誌に手順書およびチェックリストを挟んでおく)</li> <li>・6 時頃看護師が採血（時間外検査）し、当直医が検査結果を確認して G-CSF 製剤をオーダーする。</li> <li>・看護師は、チェックリストを確認して、G-CSF 製剤を投与する。</li> <li>・10 時透析室（血縁は成分採血室）に移動し、11 時までに穿刺、採取を開始する（変更なし）。</li> </ul>
<p>■ノイトロジン 650 <math>\mu</math>g/day を皮下注射しなければならないところ、注射オーダー入力が 150 <math>\mu</math>g/day と誤って入力されていたため、G-CSF 投与 2 日目のノイトロジン投与が 150 <math>\mu</math>g/day しか行なわれなかった。</p>	<p>①入力ミス(不注意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入力ミスが発生しないよう、確認を注意深くする。</li> <li>・パス化等を行い、なるべく入力ミスが発生しにくい状況を整える。</li> </ul>